

輸出事業計画

※申請者名：日田木材協同組合、品目：製材品

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・米国：木製フェンスの需要は約80万m³/年と言われ、既に約1割が日本のスギ材であり、今後もベイスギの代替需要を見込む。
- ・中国：2018年に「木構造設計規範」が改正され、スギやヒノキの構造材利用が認められたことから、新たな需要を見込む。
- ・韓国：木材自給率が低く、輸入木材に依存。ヒノキ等は断熱効果が高いこと等から内装材や壁板として利用が増えている。
- ・台湾：木造住宅への関心が高い。また半導体輸出用のパレット材等で、外材の代替需要としてスギ等が期待できる。
- ・ベトナム：日本のメーカー等による家具製造が行われており、日本からヒノキ材等が輸出されている。

【課題】

- ・丸太の生産から製品の製造、消費状況等川上から川下までの輸出情報の共有。
- ・輸出対象国におけるニーズ把握及び、適寸丸太と輸出製品の供給体制の整備、構築。商品開発等。
- ・大ロット且つ安価な注文に適時・適量の対応が困難(中国)。
- ・取引先が1社しかない為、受注量が不安定(韓国)。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組内容】

- ・輸出検討委員会を開催し、川上、川中の情報交換を行う。
- ・市場調査・現地商社等バイヤーを招聘し、輸出対象国のニーズ把握・情報収集をする。
- ・現地ニーズへの適寸丸太の供給体制の構築と製材機械の改造や新設による輸出用製材品の生産体制を整備を図る。
- ・輸出に取り組む組合員(製材所)を増やすため、輸出情報提供や研修会を開催する。
- ・韓国における市場調査により新たな取引先を獲得する。

【現在の商流の状況】

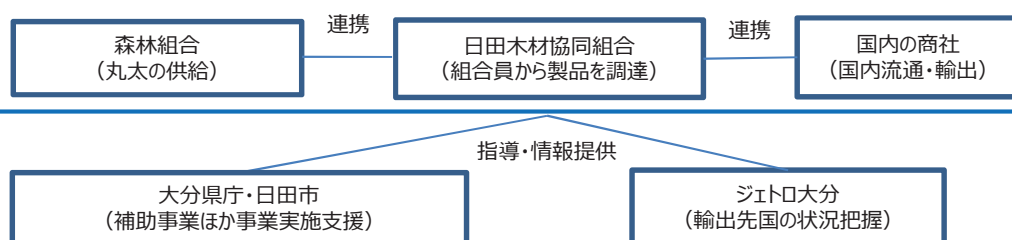


【今後の流通の展開】



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

日田木材協同組合輸出検討委員会



4. 輸出目標額

	現状（令和2年度）	目標年（令和6年度）
輸出額（円）	27,006,797	78,000,000
輸出量（m ³ ）	556	1,560
輸出先国	米国・韓国	米国・韓国・中国・台湾・ベトナム